

# 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



November

S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

November 2022 vol.103

## ◆地震墓

所在地：静岡県富士宮市内房橋上

交通：JR身延線「芝川」駅北西約2km

山梨県南巨摩郡南部町と、静岡県富士宮市の境界に位置する白鳥山は、戦国時代には武田信玄が戦略の拠点とした場所で、白鳥山を起点として、のろしを用いて駿河の情勢を信玄の居所に伝えていました。現在は、山梨県の白鳥山森林公園として、公園から山頂までは遊歩道が整備されており、10分程度でたどりつくことができます。山頂からは赤石岳や白峰三山など南アルプス、大きく蛇行した富士川の流れ、駿河湾まで見渡すことができ、富士山はす野まできれいな稜線を眺めることができます。山頂付近からの富士山の眺めは、関東富士見百景にも選定されています。

白鳥山は富士川に沿って険しい断崖を作り出している標高568mの急峻な山で、現在では山全体に大規模ながけ崩れ防止対策が行われていますが、これまでに、地震により斜面の崩壊を起こしてきました。宝永4(1707)年の宝永地震では、東の斜面が大規模な崩壊を起こし、流出した土砂が富士川を堰き止めるとともに、富士川を超えて対岸の長貫村に到達しました。この崩壊により、長貫村で14名、富士川上流、白鳥山側の橋上の集落でも8名が土砂に埋もれるなどして命を落としています。また、富士川は土砂の流入により3日間堰き止められたのちに決壊し、下流で土砂氾濫を起こしたとの記録も残されています。

嘉永7(1854)年の安政東海地震でも、白鳥山の同じ東の斜面が大規模な崩壊を起こしました。土砂の流出量は宝永地震の崩壊よりも少なかったものの、橋上では再び6名

の方が犠牲となっています。また、富士川の堰き止めも発生し、翌日に決壊して下流で被害があったとの記録が残されています。このときの白鳥山や富士川の様子として「白鳥山崩壊し富士川止める」「川水無く歩いて渡れた」「人家残らず潰れた」などの記述が残されています。

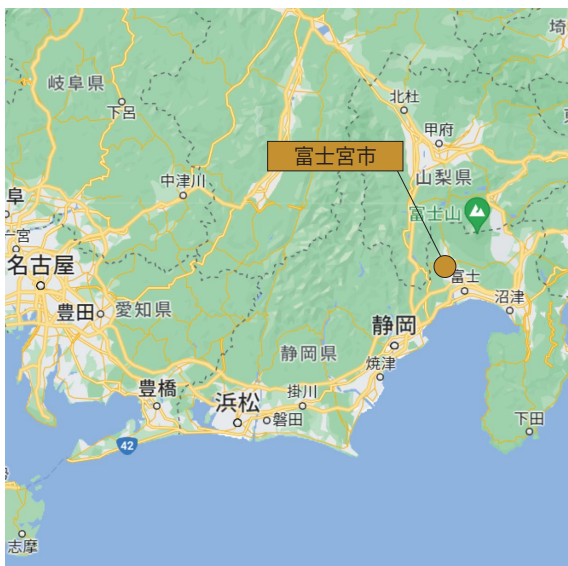
橋上の集落には、宝永地震、安政東海地震の白鳥山の崩壊で犠牲になった方々を慰霊した地震墓があります。地震墓は安政東海地震の翌年の安政2(1855)年11月に、橋上村が願主となって建てられたもので、安政東海地震による白鳥山の崩壊で6名が犠牲になったことのほか、宝永地震でも8名が犠牲になったこと、寛文13(1673)年の地震で1名が犠牲になったことが記されています。また、宝永地震による崩壊で大きな被害を受けた長貫村にも、宝永地震犠牲者供養塔が残されています。

橋上の地震墓は、現在の集落から約1.5km南に離れた場所にあります。地震墓から南は、宝永地震、安政東海地震による白鳥山の崩壊で流出した土砂が流れ込んだと想定される場所であり、村人たちがこの地震墓よりも南の白鳥山に近い場所に家を建てることのないように、との警鐘の念を込めてこの地に残したとされ、現在までその教えが守られています。



地震墓  
(出典は下記)

中部災害アーカイブス「地震・大津波の痕跡、教訓から学ぶ」の記事 ([http://www.cck-chubusaigai.jp/jishin\\_syousai.php?id=8](http://www.cck-chubusaigai.jp/jishin_syousai.php?id=8)) もぜひ併せてご覧ください。



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

## ◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

### ●河内屋新田 (vol.5,2014.9)

所在地：小牧市大字河内屋新田

交通：名鉄小牧線「味岡」駅西約3km

東春日井郡河内屋新田村（現在の小牧市大字河内屋新田）の新田頭・舟橋仁左衛門家に、安政東海地震の際の様子を記した書付が残されています。

この書付は、弘化4（1847）年頃から嘉永年間（1848～1854）の日記と思われる『年々覚』と呼ばれるもので、「嘉永七年寅十一月四日五ツ半此大じしんいすり（いすり＝揺する）夫より四日之夜をい（おいおい）いすり 又五日之ひのくれ二又大じしんいすり 夫々南西あたりくわな方二神なり之様二大なり致候 又五日夜四ッころニ 又大じしんいすり 夫よりをひをひいすり」と記されており、嘉永7（1854）年11月4日5ツ半（午前8時から9時頃）に地震が発生し大きく揺れ（安政東海地震）、翌5日夕刻

にも地震が発生し（安政南海地震）、その後も継続的に余震があったことが読み取れる内容となっています。また「嘉永七年寅六月十四日夜地しんいすり 大じしん二て五へん程いすり 其間二もいすり 夜之八ツ時ころより あさひのでごろ迄いすり」との記述もあり、同年6月14日の伊賀上野地震の前後にも当地で大きな揺れが発生し、余震が繰り返し発生していたことがわかります。

河内屋新田のあたりは小牧段丘の下段に位置する地盤の軟弱な場所で、地震により揺れやすい場所であったと考えられます。「新田」という地名からも、地震による揺れが大きくなりやすい場所であるということがうかがえ、書付の記録はそのことを裏付けるものとなっています。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.5 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

## ★富士宮まつり

富士宮市は、富士山本宮浅間大社の門前町として古くから富士登山の起点として栄えました。富士宮まつりは浅間大社の秋の例大祭として、毎年11月3日から5日にかけて行われます。

前日祭の3日には、豊作と一年の無事を感謝し、祭りの安全を祈って宮参りが行われます。その後、山車の引き回しが行われ、踊りや競り合いなどが夜まで賑やかに行われます。本祭の4日には、浅間大社周辺に20台の山車・屋台が集結し、一斉に囃子と踊りが行われた後、目抜き通り各所で競り合いや踊りが繰り広げられます。後日祭の5日には、浅間大社に御幣が返納され、祭りが終わります。祭りで囃される富士宮囃子は、平成7年3月に静岡県無形民俗文化財に指定されています。



富士宮市 HP より

### ～鉄道で巡る～

JR 身延線は、駿河湾沿岸から甲府盆地にかけて、富士山と赤石山脈に挟まれた富士川の流域を走る山岳路線で、富士駅から甲府駅まで、88.4kmの区間を結びます。

沿線には温泉・自然・食など、上質な癒しのスポットがたくさんあります。

「休日乗り放題きっぷ」を利用すれば、豊橋から身延線経由で甲府まで往復することができます。



JR 東海 HP より

### ●ブレイクタイム●

#### ♪上稲子の棚田

JR 身延線稲子駅から約4.5km、丁寧に積まれた石垣が美しい上稲子の棚田は、「静岡県棚田等十選」に認定される棚田です。上稲子を含む柚野地区の棚田全体が「柚野の棚田群」として認定され、保全されています。柚野地区ではどこからでも富士山を眺めることができますが、田植え時期の青い空と富士山が水面に映る姿は特に美しく印象的です。上稲子は、那智勝浦より逃れた平維盛（平清盛の孫）が没した地とされ、棚田には維盛の墓があり、命日の法要が行われています。



しずおか棚田・里地くらぶHPより

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

（発行：減産の会・名古屋大学減災連携研究センター 2022年11月）